デジタル田園都市国家構想交付金（地方創生推進タイプ） 事業効果検証シート
（R6年度事業分）

No.	1

担当課	定住対策課定住対策係

交付対象事業名	持続可能なまちづくりのための地域活力向上にぎわい創生プロジェクト			
総合戦略での位置付け	2-2 交流の拡大と関係人口の創出 ③人と人、人と地域との結びつきの形成	事業費	計画額（円）	9,790,000
			実績額（円）	9,779,000
事業概要	地域内外の人のつながりを生み出す電子地域通貨プラットフォームの仕組みを通して、八女市への新しいひとの流れをつくり、継続的に多様な形で関わる関係人口を創出・拡大させる。また、人と人とのつながりを深めた地域社会資本を元手に地域経済資本や地域環境資本を増やしていき、だれもが多様な才能を発揮できる持続可能な地域社会構造への移行を目指す。			
活動内容	過去4カ年のコンサルタントで運用支援、プロモーション及び地域循環促進といった部分のノウハウが蓄積され、ユーザー数や加盟店も伸びてきた。令和6年度は、コミュニティ通貨運営支援として、利用者の支援及び加盟店が自ら体験を想像し企画できるようにサポートを行った。また、持続的な仕組みになるように民間による運営体制の移行を目指し調査研究を行った ①コミュニティ通貨システム利用料 ②コミュニティ通貨企画運営業務等 ・コミュニティ通貨運営支援業務委託料 （利用者支援及び加盟店の独自企画サポート等） ・コミュニティ通貨持続可能性調査業務委託料 （利用者支援及び加盟店の独自企画サポート等） ③関係人口創出拠点施設運営 ・施設活用企画運営 ・運営人件費			
主な成果	令和6年度は加盟店が自ら体験を想像し企画できるようにサポートを行うことで、魅力的なまちのコイン体験を量産し確実な関係人口の創出につなげることや、持続的な仕組みになるように民間による運営体制の移行を目指し、関係人口のみならず様々な地域活性化のためのツールとして発展するように事業を実行していくということがテーマであったため、コミュニティ通貨運営支援として、利用者の支援及び加盟店が自ら体験を想像し企画できるようにサポートを行った。また、持続的な仕組みになるように民間による運営体制の移行を目指し調査研究を行ったが、民間による運営はまだ次期早々であるとの調査結果であった。 令和6年度は地域の自主性をサポートする支援体制としたため、アプリ利用者数やスポット数は同程度であったが、アプリ内チケット利用回数やプロジェクト実施数等のKPI値は目標値を下回った。			

重要業績評価指標（KPI）	指標（単位）	基準値	目標値（R6年度）	実績値（R5年度）	説明
	アプリ内チケット利用回数（回）	0	20,200	19,848	企画実施をサポートする体制としたため体験数が減少し、利用回数も減少した。
	地域外ユーザーのチケット利用回数（回）	0	700	4,391	イベントでのPRによって、多くの地域外ユーザーが利用された。
	コミュニティ通貨を活用したプロジェクト実施数（回）	0	47	8	企画実施をサポートする体制としたためプロジェクト実施数は減少した。
	コミュニティ通貨利用者の起業数（人）	0	5	2	まちのコインユーザーの地域おこし協力隊の起業があった。

取組の検証		
	事業効果	②本事業は地方創生に相当程度効果があった
	課題・改善点	令和5年度の取組検証で「持続的な仕組みになるように民間等による運営体制の移行を目指す」旨総括しており、それを踏まえて令和6年度は民間等による運営体制の移行等を目指し調査研究を行ったが、現時点での以降は次期早々であるとの結果であった。今後はコミュニティ通貨の更なる持続的発展に向けて、市が持つノウハウを伴走・共有しながら、民間事業者等も含む多様な主体による運営ができないか調査研究しながら利用を支援していく必要があると考えている。

〈事業効果〉
①本事業は地方創生に非常に効果的であった　②本事業は地方創生に相当程度効果があった
③本事業は地方創生に効果があった　④本事業は地方創生に対して効果がなかった

今後の方針	
	③事業の継続
	持続的な仕組みになるように民間等による運営体制の移行を目指し調査研究を行ったが、その調査結果としては、民間等による運営はまだ次期早々であると判断した。 今後はコミュニティ通貨の更なる持続的発展に向けて、市が持つノウハウを伴走・共有しながら民間（公共的団体）による運営移行も含め魅力的なまちのコイン体験を発信し確実な関係人口の創出につなげていけるよう、調査研究を行っていく。

〈今後の方針〉
①追加等さらに発展させる　②事業内容の見直し（改善）
③事業の継続　④事業の中止　⑤予定どおり事業終了

有識者からの評価	①総合戦略のKPI達成に有効であった
意見	経済的な影響を調査し、関係人口の創出から拡大に向け進めていただきたい。また、最終的に自走を目指すのであれば、加盟店のメリットをしっかり作っていく必要がある。

No.1　地方創生推進タイプ　（定住対策課定住対策係）

持続可能なまちづくりのための地域活力向上にぎわい創生プロジェクト事業【福岡県・八女市】

計画概要

地域内外の人のつながりを生み出す電子地域通貨プラットフォームの仕組みを通して、八女市への新しいひとの流れをつくり、継続的に多様な形で関わる関係人口を創出・拡大させる。また、人と人とのつながりを深めた地域社会資本を元手に地域経済資本や地域環境資本を増やしていき、だれもが多様な才能を発揮できる持続可能な地域社会構造への移行を目指す。

事業の目標

当事業は、電子地域通貨プラットフォームの仕組みを通して、地域内の多様な人材が地域活動に関わり、地域外からの関係人口を創出・拡大し、多様な人材が活躍する地域社会構造への移行を目指すことで、地域活力の向上とにぎわいを生み出すことを目的としている。



事業の成果

利用者の支援及び加盟店が自ら体験を想像し企画できるようにサポートを行うことで、魅力的な体験を量産化して関係人口の創出につながるよう支援した。
また、持続的な仕組みになるように民間等による運営体制の構築を目指して調査研究を行った。

KPI	R6目標値	R6実績値
アプリ利用者数	ー	8,573人
スポット数	ー	280件
アプリ内チケット利用回数※	20,200回	19,848回
地域外ユーザーのチケット利用回数※	700回	4,391回
コミュニティ通貨を活用したプロジェクト実施数※	47回	8回
コミュニティ通貨利用者の起業数※	5人	2人

※印は、地方創生推進交付金の事業計画に掲載しているKPI

地方創生推進交付金（デジタル田園都市国家構想交付金） 事業効果検証シート
（R6年度事業分）

No.	2

担当課	企画政策課企画政策係

交付対象事業名	地域資源を活用した持続可能な八女市ブランド構築事業			
総合戦略での位置付け	2-2 交流の拡大と関係人口の創出 ②持続可能な観光事業の推進と観光施設の整備	事業費	計画額（円）	27,061,700
			実績額（円）	27,061,700
事業概要	八女市ブランドの構築・共有が出来ていない、情報発信における地域住民の参画がなされていない、若年層への訴求が不足しているという課題を解決するため、戦略を立てたうえで、分野横断的な情報発信を行っていく。			
活動内容	・シティプロモーション戦略に基づく福岡市役所前での八女市PRイベント（八女市市制70周年・合併15周年記念事業） ・住民参加型魅力発信事業（八女市魅力発信ワークショップ）の実施 ・パンフレット（電子雑誌）・動画の制作・発信 ・八女市広報基本方針の作成とそれに伴う八女市広報の全面リニューアル			
主な成果	・八女市制70周年・合併15周年記念として、福岡市役所西側ふれあい広場で茶のくに八女観光物産展を開催。JA福岡八女や八女森林組合など34団体が出展し、八女の特産品等の販売・PRを行った。また、ふるさと納税や移住・定住の相談コーナー、八女の伝統文化、伝統工芸品の発信ブースを設け、来場者に八女のPRを行った。 ・市民により情報がしっかりと伝わることを目的とした「八女市広報基本方針」を作成し、カラーページ化・写真やイラストの戦略的な活用、QRコード等の活用とユニバーサルデザインのフォント使用など、全面的な八女市報のリニューアルを行った。 ・電子雑誌「旅色」の更新と「旅色」パンフレットを10,000部増刷し施設配架・イベントでの配布を行った。また、八女市出身のタレントを起用したシティプロモーション動画「やめのおと」を制作し、YoutubeやSNS広告でPRしたほか、市役所や道の駅たちばななど八女市内各所で放映している。YouTube上では3本で計7万回以上の再生を得た。 ・住民が自ら八女市の魅力を情報発信することを目的に、八女市魅力発信ワークショップを2回開催。ローカルの魅力の探し方、魅力的な記事の作成方法とと発信の仕方について学んでもらい、インターネット上で記事発信を行った。			

重要業績評価指標（KPI）	指標（単位）	基準値	目標値（R6年度）	実績値（R6年度）	説明
	八女市の観光入込客数（千人）	1,047	1,327	2,037	コロナ以降、各種取り組みの成果により八女市への入込客数が増加している。
	八女市の全国魅力度ランキング（位）	341	306	351	僅差ではあるが、順位が下落している。
	八女市の20代・30代の転入者数（人/年）	1,073	1,143	1,739	外国人含め、転入者が増加している。
	魅力発信隊員（市民ライター）による記事発信件数（件）	0	35	22	ローカリティサイトでの記事発信件数による。

取組の検証		
	事業効果	③本事業は地方創生に効果があった
	課題・改善点	・茶のくに八女観光物産展は猛暑の日中開催となったため、今後のイベント開催時期や時間帯・内容は検討する必要がある。 ・シティプロモーション戦略のなかで観光サイト等の情報発信体制の見直しについても協議を進めていく。

〈事業効果〉
①本事業は地方創生に非常に効果的であった　②本事業は地方創生に相当程度効果があった
③本事業は地方創生に効果があった　④本事業は地方創生に対して効果がなかった

今後の方針	
	③事業の継続
	引き続き、内容をブラッシュアップしながら住民参加型魅力発信事業及び若年層に向けた八女市の観光・農産物・文化・ふるさと納税・移住定住情報による「八女ブランド」のプロモーションを実施していく。

〈今後の方針〉
①追加等さらに発展させる　②事業内容の見直し（改善）
③事業の継続　④事業の中止　⑤予定どおり事業終了

有識者からの評価	①総合戦略のKPI達成に有効であった
意見	20代～30代の若年層、特に女性に向けたプロモーションとして効果的であったと考える。 SNSのアナリティクスデータをKPIとして補足するなど、検討をお願いしたい。

No.2　地方創生推進タイプ　（企画政策課企画政策係）

地域資源を活用した持続可能な八女市ブランド構築事業

事業の目的

八女市ブランドの構築・共有が出来ていない、情報発信における地域住民の参画がなされていない、若年層への訴求が不足しているという課題を解決するため、戦略を立てたうえで、分野横断的な情報発信を行っていく。

事業の概要

○シティプロモーション戦略に基づく福岡市役所前での八女市PRイベント（八女市市制70周年・合併15周年記念事業）

○住民参加型魅力発信事業（八女市魅力発信ワークショップ）の実施

○パンフレット（電子雑誌）・動画の制作・発信

○八女市広報基本方針の作成とそれに伴う八女市広報の全面リニューアル

KPI	R6目標値	R6実績値
八女市の観光入込客数	1,327千人	2,037千人
八女市の全国魅力度ランキング	306位	351位
八女市の20代・30代の転入者数	1,143人／年	1,739人／年
市民による記事発信件数	35件	22件









地方創生推進交付金（デジタル田園都市国家構想交付金） 事業効果検証シート
（R6年度事業分）

No.	3

担当課	文化振興課

交付対象事業名	ヘリテージ・タイムトラベル：古き良き町並み魅力拡大プロジェクト			
総合戦略での位置付け	2-2 交流の拡大と関係人口の創出 ①八女の資源を生かした観光の推進	事業費	計画額（円）	9,218,000
			実績額（円）	9,212,900
事業概要	八女市の伝統的建造物群保存地区の魅力を高め、地域への誘客を促進することを目的としています。インフルエンサーを活用して国内外へ伝建地区の魅力や文化を発信し、認知度を向上させます。また、市指定文化財「今里家住宅」を町家ホテルとして活用する保存活用計画を策定します。これにより地域の経済活性化を図り、歴史的価値の高い観光目的地としてのブランド力を強化します。			
活動内容	①インフルエンサーによる認知度の拡大 影響力と拡散力のある旅行系インフルエンサーを招聘し、伝統的建造物群保存地区の魅力を国内に向けて発信し認知度を高める。インフルエンサーは伝統的建造物群保存地区を訪れ、体験取材を通じて動画製作と配信を行う。これにより、白壁の町並みの美しさ、町家ホテルや食文化の魅力、八女茶や伝統工芸の体験などをソーシャルメディアを通じて広く拡散。 ②市指定文化財今里家住宅の保存活用計画の策定によるブランド力強化 伝統的建造物群保存地区の重要なヘリテージである市指定文化財今里家住宅を町家ホテルとして活用できるように、市指定文化財今里家住宅保存活用計画を策定。保存活用計画では、文化財としての本質的な価値を保存・保全し地域ブランドとするために、事前調査を実施し、大規模改修とホテル事業への用途変更によって文化財の価値を損なわずに活用できるように計画を策定。			
主な成果	①人気ユーチューバーの「スーツ旅行」さん（YouTubeYouTubeチャンネル登録者106万人）と「がみ」さん（YouTubeチャンネル登録者23.8万人）が、八女福島及び黒木の保存地区に所在する修理後に活用される町家ホテルや店舗での体験や周辺の観光スポットや見所も織り交ぜた約100分の動画映像を制作。国内外に配信し、再生数は、7万回を超えている。市内の施設では「YouTubeを見て来ました」との声も聞かれ、この事業を通して認知度は向上していると言える。 ②今里家住宅は、八女福島の町家の特徴である「居蔵」と呼ばれる白壁土蔵造りの最初の建物であり、「居蔵の始まり」とされ、八女福島地区で最も重要かつ価値の高い建築物である。今回策定された保存活用計画をもとに、令和7年度から9年度にかけて地元NPO法人等による大規模改修が行われる。改修後は、ホテル事業として活用される予定。			

重要業績評価指標（KPI）	指標（単位）	基準値	目標値（R6年度）	実績値（R6年度）	説明
	地域における観光消費額（旧八女＋旧黒木）（百万円）	1,889	1,895	2,358	年度の数値が出ないため、R6年.1月～12月の数値。観光消費額は伸びている。
	横町町家交流館の来館者数（人）	20,431	21,031	20,723	インバウンド観光客も増加しており、来館者数は増加傾向にある。
	横町町家交流館SNSフォロワー数（人）	900	1,200	1,230	定期的な発信により、フォロワー数は増加している。
	観光入込客数（旧八女+旧黒木）（千人）	1,091	1,094	1,265	年度の数値が出ないため、R6年.1月～12月の数値。観光入込客数は目標を大きく上回る増加があった。

取組の検証		
	事業効果	③本事業は地方創生に効果があった
	課題・改善点	多様な映像コンテンツがあるなかで、伝建地区の認知度を向上させる最も効果的な媒体と依頼先（インフルエンサー等）の選定が必要。また、地域性を考慮して、九州圏内のリピーターを主なターゲットにするなどの、ターゲットに応じた候補とテーマの絞り込みを行う。

<事業効果>
①本事業は地方創生に非常に効果的であった　②本事業は地方創生に相当程度効果があった
③本事業は地方創生に効果があった　④本事業は地方創生に対して効果がなかった

今後の方針	
	③事業の継続
	令和6年度に引き続き伝建地区の撮影により映像制作と配信を行う。八女福島地区では、伝建地区の経済を支えてきた提灯や仏壇などの伝統工芸の手わざを伝える職人にスポットをあて、モノづくりに隠された八女の優れた手技映像を織り交ぜる。黒木地区では、伝建地区内にある矢部川や水路や大クスなど自然と建造物のをかけ合わせた映像作成を予定。 ターゲットやインフルエンサーに応じた内容を絞って依頼し、映像を作成し、SNS（InstagramやTikTok等）で配信。

<今後の方針>
①追加等さらに発展させる　②事業内容の見直し（改善）
③事業の継続　④事業の中止　⑤予定どおり事業終了

有識者からの評価	①総合戦略のKPI達成に有効であった
意見	往路モーションは良い取り組みだが、町並みの宿のキャパシティにも限界があるので、部屋数を増やす取り組みも並行して実施していただきたい。また、インバウンド向けのPRも検討していただきたい。

No.3　地方創生推進タイプ　（文化振興課歴史まちづくり係）

ヘリテージ・タイムトラベル：古き良き町並み魅力拡大プロジェクト

事業の目的

伝統的建造物群保存地区の平日の閑散さや認知度低さを解決することを目的に、魅力向上と地域誘客促進を目指します。インフルエンサーによる認知度拡大の展開により、町並みに新たな活気をもたらし、観光客増加による地元経済に波及することで、地域全体が活気づきます。

事業の概要

○八女福島地区と黒木地区の２つの伝統的建造物群保存地区において、観光目的地としての認知度を拡大するために、市がインフルエンサー（ユーチューバー）を招聘し、動画制作と配信により地域の魅力を国内に発信。

https://www.youtube.com/watch?v=GoRxn_F96p8
You tube 再生回数　7.2万回（R7.5.23）

〇八女福島地区にある市指定文化財今里家住宅を町家ホテル事業として活用することを目的に、市民の財産である文化財としての価値を毀損することなく活用するために、保存活用計画を策定



スーツさんと行く、福岡県八女市伝建地区への旅。

7.2万 回視聴・3か月前

KPI	現状値 R5年度	目標値 R６年度	実績値 R６年度
地域における観光消費額（旧八女+旧黒木） ※R5＝R5年1月-12月　R6＝R6年1月-12月	1,889百万円	1,895百万円	2,358百万円
横町町家交流館の来館者数	20,431人	21,031人	20,723人
横町町家交流館SNSフォロワー数	900人	1,200人	1,230人
観光入込客数（旧八女+旧黒木） ※R5＝R5年1月-12月　R6＝R6年1月-12月	1,091千人	1,094千人	1,265千人



地方創生推進交付金（デジタル田園都市国家構想交付金） 事業効果検証シート
（R6年度事業分）

No.	4

担当課	観光振興課観光振興係

交付対象事業名	地域連携型持続可能な観光拠点整備事業～八女ドリンクツーリズム創出～			
総合戦略での位置付け	2-2 交流の拡大と関係人口の創出 ②持続可能な観光事業の推進と観光施設の整備	事業費	計画額（円）	997,781,000
			実績額（円）	919,545,899
事業概要	地域に点在する施設・豊かな自然・そこで生活する人々を連携させることを目的に持続可能な観光拠点（べんがら村）の整備を実施する。今回整備するべんがら村を都市との交流の入り口と位置づけ、八女観光の拠点とするために増設する新棟や屋外スペースでの農産品の直売や観光PRブースを設置することでファミリー層向けの観光客をターゲットとした施設整備とする。また、本施設の特徴であるクラフトビールの醸造、八女茶や日本酒をはじめ多彩な農作物を掛け合わせたドリンクツーリズムを展開することで交流人口の創出を目指す。			
活動内容	利用率が低く水道料の負担が大きく夏季のみの稼働にとどまっていたプールや、浴槽が広く湯量に負担がかかる家族風呂を廃止し、観光客が利用しやすいサウナ（現状の2倍の広さに拡張）や子ども向け浴槽等を大浴場に設置した。直売所については、観光客に八女の良いものや価値のある商品を提供するローカルセレクトショップに改変して新しい顧客獲得につなげた。また、既存の複合施設としての機能をさらに高める改修として、クラフトビールの醸造体験ができる機能追加し、外構整備として、車泊スペース、マルシェ広場の整備を行った。			
主な成果	地域の魅力的なプレーヤーやモノが出会い、新たな商品や体験を開発し提供する場を整備することができた。			

重要業績評価指標（KPI）	指標（単位）	基準値	目標値（R6年度）	実績値（R6年度）	説明
	八女市の年間観光入込客数（人）	1,990,000	2,581,500	2,036,800	実績値は基準値を超え、昨年度よりも増加しているが、目標までは至らなかった。
	イベント等における連携事業者数（人）	0	20	469	施設管理者がイベントを計画して事業者に対して声掛けを行っているため
	施設利用者数（人）	319,922	696,422	368,713	実績値は基準値を超え昨年度よりも増加しているが、目標までは至らなかった。
		0			

取組の検証		
	事業効果	③本事業は地方創生に効果があった
	課題・改善点	観光客についてはコロナ以前の状態まで回復してきたが、年間観光入込客数および施設利用者数は目標には届かなかった。イベント等における連携事業者数については、市内だけではなく市外も含め多くの事業者と連携を図ることできた。 引き続き本施設を八女市の観光の拠点として回遊性を持たせ、連携して集客するために、施設の認知度を高め定期的なイベントの実施周知等を行い集客力を高めることで観光客の増加を図る必要がある。

〈事業効果〉
①本事業は地方創生に非常に効果的であった　②本事業は地方創生に相当程度効果があった
③本事業は地方創生に効果があった　④本事業は地方創生に対して効果がなかった

今後の方針	
	③事業の継続
	魅力的なイベントや地元農産物を活用したメニューの開発等を行い、多世代や市内外の交流、顧客満足度を上げるための各種取り組みを行う。また、集客力を高めるための広告、宣伝に力を入れ客の増加を図る。

〈今後の方針〉
①追加等さらに発展させる　②事業内容の見直し（改善）
③事業の継続　④事業の中止　⑤予定どおり事業終了

有識者からの評価	①総合戦略のKPI達成に有効であった
意見	イベントやマルシェの来客数は多いが、施設内への誘導に繋がっていない部分があるので、施設内と連携した取り組みを実施してはどうか。

No.4　地方創生拠点整備タイプ（観光振興課）

地域連携型持続可能な観光拠点整備事業　～八女ドリンクツーリズム創出～

【福岡県・八女市】

事業の概要

地域に点在する施設・豊かな自然・そこで生活する人々を連携させることを目的に持続可能な観光拠点（べんがら村）の整備を実施する。今回整備するべんがら村を都市との交流の入り口と位置づけ、八女観光の拠点とするために増設する新棟や屋外スペースでの農産品の直売や観光PRブースを設置することでファミリー層向けの観光客をターゲットとした施設整備とする。また、本施設の特徴であるクラフトビールの醸造体験、八女茶や日本酒をはじめ多彩な農作物を掛け合わせたドリンクツーリズムを展開することで交流人口の創出を目指す。

事業の目標

●地域資源を活かした観光ツアー商品開発による交流人口の増

●八女ブランド農産物の直売システム、加工による農業所得の増

●情報発信（観光と食）による都市住民との共生・対流の増

事業の成果

観光客についてはコロナ以前の状態まで回復してきたが、年間観光入込客数および施設利用者数は目標には届かなかった。イベント等における連携事業者数については、市内だけではなく市外も含め多くの事業者と連携を図ることできた。

KPI	R6目標値	R6実績値
八女市の年間観光入込客数（人）	2，581，500	2，036，800
イベント等における連携事業者数（人）	20	469
施設利用者数（人）	696，422	368，713











地方創生推進交付金（デジタル田園都市国家構想交付金） 事業効果検証シート
（R6年度事業分）

No.	5

担当課	上陽支所地域振興係

交付対象事業名	「上陽の館」（仮称）整備事業　～デジタル×ハワイ×上陽　DXを活用した新たな観光戦略基地～			
総合戦略での位置付け	2-2　交流の拡大と関係人口の創出 ②持続可能な観光事業の推進と観光施設の整備	事業費	計画額（円）	338,266,500
			実績額（円）	271,828,315
事業概要	既存施設を改修し、「デジタル×ハワイ×上陽」をテーマとした魅力的な観光及び地域交流拠点施設を設置することで、インバウンドを含めた八女市の観光消費額・上陽町にかかわる関係人口を増加させるとともに、地域住民の交流促進を図る。また、カフェメニューの素材としての活用やWebでの販売により特産品の販売消費の拡大を図る。			
活動内容	これまで上陽地区の観光の拠点であった既存施設を、上陽に縁のあるダニエル・建・イノウエ氏を顕彰する展示を中心とし、その出身地であるハワイと映像や音響を駆使したデジタル技術を上陽地区の風景や特産物等の資源と掛け合わせ、八女市上陽地区観光交流施設「ダニエル イノウエ ミュージアム」としてリニューアルオープンした。 本館1階は、上陽町に縁のあるダニエル・建・イノウエ氏に関する展示エリアのほか、ハワイや地域の風景等をその場にいるかのように体験できるVRエリアとし、市内外のみならずインバウンド客の誘致を図った。 カフェでは、地元食材を活用しながらも、本施設のコンセプトである「ハワイアン」をイメージした付加価値の高いメニューを提供したほか、ディナー貸し切りのプランを提供するなど、新たな顧客獲得を図った。 本館2階は、音響機器や通信環境を備えたスタジオ及びイベントスペースとして貸し出し、施設の利用促進を図った。 ショップでは、地域の特産品を中心としつつ、ハワイアン雑貨など様々な商品を提供したほか、ECサイトによるオンライン販売を行い、八女市上陽町の認知度アップや販売消費の拡大を図った。 これらの取り組みを積極的にSNSで発信し、観光交流人口の創出を図った。			
主な成果	○本館1階 ダニエル・建・イノウエ氏の経歴や功績を紹介する年表やパネル、講演などの記録映像を視聴出来るプロジェクターやモニター機器を設置。また、ダニエル・K・イノウエインスティテュートから提供を受けた資料や実際に着用された衣服等を展示するエリアを整備した。 ハワイの風景や石橋・茶畑といった地域の風景、ダニエル氏の講演映像等のコンテンツを作成、プロジェクターにより3面に投影し没入感のあるVR体験エリアを整備した。 上陽産の豚や地域の野菜、八女茶を使ったメニューを提供するカフェを整備、飲食スペースにもダニエル氏の格言を掲示した。 ○本館2階 フラダンスやヨガ教室として活用できるよう壁一面の大型鏡や音響機器を備えると伴に、オンラインでの交流や会議にも使用するためにプロジェクターやスクリーン等の映像・通信機器を設置したスタジオ・イベントスペースを整備した。 ○ショップ ガラス張りの壁面を活かし周辺の景色が楽しめるように商品棚を低くし、特産品や地域で作られた食材を販売するショップを整備した。また、収益力を向上させるためオンライン販売ができるECサイトを構築した。 上陽地区に残る石橋をパネルやモニターによる動画で紹介する展示エリアを整備した。また、モニターでは石橋に加えて新商品や季節のイベント等を紹介できる機能も備えた。			

重要業績評価指標（KPI）	指標（単位）	基準値	目標値（R6年度）	実績値（R6年度）	説明
	上陽地区の観光消費額（百万円）	455	480	95	令和6年4月リニューアルオープンに伴う減少。
	上陽の館（旧ほたると石橋の館）入込客数（千人）	21.8	24.8	10.8	令和6年4月リニューアルオープンに伴う減少。
	観光案内所外国人訪問者数（人）	12	112	317	
	作成したメタバース（Webサイト）利用者数（人／年） （参考指標）作成した情報コンテンツ閲覧者数	0	10,000	62,135	メタバース空間構築を取り止めたため参考指標

取組の検証		
	事業効果	③本事業は地方創生に効果があった
	課題・改善点	利用者数が減少する平日・冬期の集客が課題。今後も本施設を上陽地区の観光拠点として、観光消費額・交流人口の増加を図るための取り組みを積極的に行っていく必要がある。

〈事業効果〉
①本事業は地方創生に非常に効果的であった　②本事業は地方創生に相当程度効果があった
③本事業は地方創生に効果があった　④本事業は地方創生に対して効果がなかった

今後の方針	
	③事業の継続
	施設を最大限に活用し、夜市などの魅力的なイベントを定期的に開催するほか、カフェでは季節に応じたコースの提供・サマータイム導入による来客者の利便性向上を図る。 SNSを中心とした情報発信を積極的に行い、認知度・集客力・ブランドイメージの向上を図る。

〈今後の方針〉
①追加等さらに発展させる　②事業内容の見直し（改善）
③事業の継続　④事業の中止　⑤予定どおり事業終了

有識者からの評価	①総合戦略のKPI達成に有効であった
意見	展示の硬直化を防ぐ取組み、川遊びの来客を誘導する取り組み、冬季の活性化の取り組みの検討をお願いしたい。

No. 5 地方創生拠点整備タイプ　（上陽支所地域振興係）

「上陽の館」（仮称）整備事業 ～デジタル×ハワイ×上陽 DXを活用した新たな観光戦略基地～ 【福岡県・八女市】

事業の概要

既存施設を改修し、「デジタル×ハワイ×上陽」をテーマとした魅力的な観光及び地域交流拠点施設を設置することで、インバウンドを含めた八女市の観光消費額・上陽町にかかわる関係人口を増加させるとともに、地域住民の交流促進を図る。また、カフェメニューの素材としての活用やWebでの販売により特産品の販売消費の拡大を図る。

活動内容・成果

上陽に縁のあるダニエル・建・イノウエ氏を顕彰する展示を中心とし、その出身地であるハワイと映像や音響を駆使したデジタル技術を上陽地区の風景や特産物等の資源と掛け合わせ、八女市上陽地区観光交流施設「ダニエル イノウエ ミュージアム」としてリニューアルオープンした。

・本館1階　ダニエル・建・イノウエ氏展示エリア、ハワイや地域の風景を映すVR体験エリア、地域の特産品を使用したメニューを提供するカフェ。

・本館2階　大型鏡や映像・音響機器を備えたスタジオ・イベントペース。

・ショップ　特産品や地域の食材の販売スペース、ECサイトの構築、石橋展示エリア。

ダニエルイノウエミュージアム（外観）



VR体験エリア（ハワイの風景）



スタジオ・イベントスペース



ダニエルK. イノウエ常設展示室



地方創生推進交付金（デジタル田園都市国家構想交付金） 事業効果検証シート
（R6年度事業分）

No.	6

担当課	黒木支所地域振興係

交付対象事業名	笠原地区木育及びキャンプ施設整備計画			
総合戦略での位置付け	2-2 交流の拡大と関係人口の創出 ②持続可能な観光事業の推進と観光施設の整備	事業費	計画額（円）	384,135,000
			実績額（円）	357,494,000
事業概要	「木育」の機能を持つキャンプ場を整備し、地域住民と連携し地域全体で観光の振興と木育の推進を図り、キャンプ愛好家はもとより子育て世代に自然体験の場を提供し、交流人口の増による地域のにぎわいを創出する。 また、「薪」に着目し、地域内に豊富にある森林資源に付加価値をつけ、施設利用者に地域農産物とあわせて販売することで地場産品の消費拡大を図り経済の活性化を促し、さらには、特色ある施設を運営することで地域の魅力を発信し、施設・森林管理や木育スタッフなど雇用機会の創出も図るなど関係人口の創出・拡大、将来的には移住、定住につながる事業展開を行うことによって、八女ファンを増やしていき都市部から人を呼び込み人口の増加を目指す。			
活動内容	山間地という森林環境の中に、木のぬくもりに直接触れることができる木のおもちゃを備える木育施設兼母屋、八女産材を使用した宿泊施設5棟、オートキャンプサイト18区画、炊事場・シャワー・トイレのサニタリー棟、母屋の中には地域農産物や薪を販売する物販スペース、八女茶発祥の地としての地の利を活かした八女茶カフェを整備した。			
主な成果	地域住民と来訪者の交流拠点とすることで交流人口の増加、経済の活性化、雇用の創出及び移住・定住を推進し、将来にわたって自立性を持ったコミュニティの運営ができる地域となることを目指す。 周辺の森林を含め自然体験の場を提供し、親子ふれあいの場、森林環境教育の場としても利活用していく。 また、物販、八女茶カフェを地場産品の販売拠点として利活用していく。あわせて、子どもから高齢者まで多世代間交流の拠点としての役割も期待できる。			

重要業績評価指標（KPI）	指標（単位）	基準値	目標値（R6年度）	実績値（R6年度）	説明
	施設入込客数（人）	0	12,500	14,078	木育体験者数、各サイト及びキャビン、コテージ利用者数。 リピーターの口コミ等による当該施設への人気が継続しているため。
	施設の利用料収入額（千円）	0	13,200	50,691	サイト売上高。人気の高さと併せ、レンタル品の単価を上げたため。
	市の延べ宿泊者数（千人）	109	140	118	宿泊支援事業が終了したため。
		0			

取組の検証		
	事業効果	②本事業は地方創生に相当程度効果があった
	課題・改善点	施設整備まで度重なる地域との話合いを行い、地元雇用を基本として運営しているが、地域の高齢化と若年者不足のより円滑な事業運営のための人材確保が課題となっている。また、さらなる地域への経済効果の波及のため、地場産品の販売や木育における人的支援および原材料の供給等についての体制整備を推進する必要がある。取り組みが遅れていた木育メニューの充実化については、新型コロナウイルス感染症の5類移行により木育ひろばに木のおもちゃの展示ができるようになり木育に貢献している。

〈事業効果〉
①本事業は地方創生に非常に効果的であった　②本事業は地方創生に相当程度効果があった
③本事業は地方創生に効果があった　④本事業は地方創生に対して効果がなかった

今後の方針	
	③事業の継続
	顧客満足度を上げるための各種取り組みを行い、リピーターゲストの定着を図るとともに、カフェや木育メニューの充実を図ることはもとより、今後は遊休農地を活用し施設利用者を対象とした農業体験プランを検討し新規来訪者の増加を図る。

〈今後の方針〉
①追加等さらに発展させる　②事業内容の見直し（改善）
③事業の継続　④事業の中止　⑤予定どおり事業終了

有識者からの評価	①総合戦略のKPI達成に有効であった
意見	人気の施設となっており評価する。アウトドアブームが去ったのちも持続可能なように新たな取り組みを行っていただきたい。

No.6　地方創生拠点整備タイプ　　（黒木支所地域振興係）

笠原地区木育及びキャンプ施設整備計画【福岡県・八女市】

事業の概要

「木育」の機能を持つキャンプ場を整備し、地域住民と連携し地域全体で観光の振興と木育の推進を図り、キャンプ愛好家はもとより子育て世代に自然体験の場を提供し、交流人口の増による地域のにぎわいを創出する。 また、「薪」に着目し、地域内に豊富にある森林資源に付加価値をつけ、施設利用者に地域農産物とあわせて販売することで地場産品の消費拡大を図り経済の活性化を促し、さらには、特色ある施設を運営することで地域の魅力を発信し、施設・森林管理や木育スタッフなど雇用機会の創出も図るなど関係人口の創出・拡大、将来的には移住、定住につながる事業展開を行うことによって、八女ファンを増やしていき都市部から人を呼び込み人口の増加を目指す。

事業の目標

●地域住民と来訪者の交流拠点とすることで交流人　口の増加、経済の活性化、雇用の創出及び移住・定住を推進し、将来にわたって自立性を持ったコミュニティの運営ができる地域となることを目指す。

●周辺の森林を含め自然体験の場を提供し、親子ふれあいの場、森林環境教育の場としても利活用していく。

●物販、八女茶カフェを地場産品の販売拠点として利活用していく。

●子どもから高齢者まで多世代間交流の拠点

事業の成果

●令和3年4月オープン以来、目標を上回る来訪者があり、交流人口の増や地場産品の消費拡大など地域の活性化が図られている。また、Uターン者や地元住民の雇用により雇用機会の創出が図られた。

KPI	R6目標値	R6実績値
施設入込客数	12,500人	14,078人
施設の利用料収入額	13,200千円	50,691千円
市の延べ宿泊者数	140千人	118千人



